

北海道清水高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
Ⅰ グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	本校（総合学科）生徒個々の能力に応じた教育プログラムを実験圃場ならびに施設を有効活用し実践します。	A	『食』、地域産業について主体的に学び、実習等をとおして職業教育を推進し人材育成を図る。STEAM教育5つの領域を横断的・総合的に学ぶプログラムを実践する。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	地域社会を理解させ十勝の産業のポテンシャルの高さを活用し、国際的視野で物事を判断・表現できる人材育成を目指します。	B	地域課題を探究し、課題解決の力を身に付けさせ、外国語をツールとした情報活用力と表現力を養う。
Ⅱ 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	清水町やJ Aと協力して地域特産物を活用した商品開発を行うための実践教育をすすめます。 地域産業の構造を理解させ、モノ・ヒト・コトづくりの体系を学び原料から製造、食品ビジネスを担う人材を育てます。	A	地域の催事などを学習の場とした、特産品の開発・販売を実践的に学び、即品ビジネスの理解を深める。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	十勝西部の生産者をはじめ地域の教育力を活用した研究や連携学習を深化させます。	A	地域産業への興味と関心を深めさせ、地域資源を活用した加工・製造につなげる学習を行う。
Ⅲ 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	地域河川、自然などを活用し、農業と自然の共存に向けた活動と循環型坂井の意識を高める連携研究をすすめます。	B	町内の生産者との交流や協力を得て、時速可能な開発目標を念頭に、人間生活と自然環境との調和・共生について啓蒙活動をすすめる。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	地域や異校種との連携を通して地域貢献の意識を醸成するとともに、生産した作物利用と活用を通して、食と健康、命の大切さや尊さなど食することについての意識を高めます。	A	食品製造や町内花壇造成をはじめ、幼稚園との交流による「食育」の機会を活かし、技術や生活環境の向上に関する活動にを深める場とする。
Ⅳ 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	地域の他分野の統合知を活用できる学習環境を整備し、生徒を中心とした学校及び関連産業とのネットワークを活用したICT教育を実践します。	B	遠隔授業や実験実習を取り入れた学習方法を実践し、表現する力と発信する力を育てる。
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	台風などの自然災害の経験を活かし地域と防災連携及び防災教育と農業の多面的機能についての学習をすすめます。	A	自然災害や台風10号の被害に関する事柄・事象を教材とし自然と人間生活や農業生産現場としての関係について学習する機会を増やす。